

6月（水無月）

梅雨を彩る、アジサイが美しく映える時期になりました。

5月初旬に、孫娘が留学しているときにお世話になった、フランスの方々が、観光のために、日本に来られました

初日は、関空へお出迎えし、その足でJRの「はるか」で京都へ。

東本願寺のすぐそばにあるホテルへ。

歩いてホテルまで案内したのですが、本願寺さんの前あたりで、京都駅を振り返り近代的なつくりも素晴らしいが、お寺が近くにあり「古都」という名にふさわしい“建造物”に出来なかったのかと、残念がっておられたのが印象に残っています。

翌日、車で「金閣寺」を案内し、その後比叡山へ。

私の子供のころ（約60年位前）の記憶では、土の道で大きな木々の根っこが飛び出していて、歩きづらかったように記憶しているのですが、今はどこに通じる道も、ほぼ舗装されていて歩いての移動も思いのほか楽に思えました。

根本中堂の中では海外の方ということで、お坊さんより種々説明をしていただきました、

その中で心に残る言葉は、本堂に灯されている灯明は1300年位1度も消えることなく灯され続けていること。「小さなことを続けることの大切さ」

「同じことを長年にわたり伝えることの大切さ」を学びます。との事でした。

本堂の中でゆっくりと説明を受けていると、1000年以上の重みのある言葉として聞こえてくるから不思議です。

小さいことでも、同じことを続けることで大きなことが、達成できる。

例えば雨のような水滴でも、永年にわたり大きな石にポトポトと落ち続けることで、穴が開くということ。

「同じことを伝えることの大切さ」は伊勢神宮の遷宮の話を思い出します。

20年ごとに建て替えることで、大工の技術。それに使われる工具の継承。そのために使われる木材の植林。運搬方法。そのために行われる祀りごと。それに使われる神器。などなど、少し考えただけでも、これだけのことが思い浮かぶので、もっともっと多くのことが、伝承され、そのことで生まれる経済効果も計り知れないと、言われております。

同行するまでは、わるざわしさが先に立っていたのですが、久しぶりに仕事を離れ、3日間、京都、大阪の夜の心齋橋付近、奈良公園、昔を懐かしみ、お寺の案内の方の話に心傾け、いい休養と心身ともにリフレッシュ出来た3日間でした。

今月の園芸

- 観葉植物の植替え
- 挿し木、さし芽
- 殺菌殺虫をこまめに
- あじざいは6月中に切り戻し

2017年6月27日 西井忠義